

亞洲服務業管理應用與未來展望國際研討會 兼 日本企業經營学会第 11 回國際學術研究大會

【研究発表】 於：D2（14:00～）

グリーン・ツーリズムの地域経営における課題と展望

同志社大学大学院
博士後期修了 望田 友加

1. はじめに

日本では現在、地方創生や地域活性化を主眼として農業の多面的機能に着目した様々な政策が行われており、なかでも農業・農村地域の文化的資源を活用した観光形態であるグリーン・ツーリズムや農泊ビジネスが注目されている。

しかしながら、その政策は補助金を中心としたものであるため、事業スタート時には有効なものとなるが、どのような組織体制で地域資源に基づいた資本をどのように使用していくのかについての視点が欠けているため、補助金終了後に事業が終了していくことも少なくない。事業を持続的にしていくためには、地域の歴史や文化的要素を経営資源として維持・発展させていくことが不可欠である。

そこで本報告は、地域の文化資源を資本としてグリーン・ツーリズムを活用した持続可能な地域経営のあり方について考察するものである。

2. グリーン・ツーリズムの地域経営に関する研究動向

宮崎は、地域経営の主体に着目し、地域内で組織的体制を作り運営されている形態を「地域経営型グリーン・ツーリズム」と定義している（宮崎編 2002：6）。また、地域経営には、「多数の小農や住民を支援して、地域をマネジメントする方法」と「住民が出資、労働、農産物出荷、土地提供などにより地域経営体に参加する方法」の2つがあるとしている（宮崎編 2006：11）。近年、東アジアにおいてもグリーン・ツーリズムの関心が高まっているのが、宮崎によれば東アジアに共通した特徴としてあげているのが、後者の方法であるとしている（宮崎編 2006）。

こうした一連の宮崎による考察は、組織の設立期から発展期までの部分にフォーカスが当てられ、地域主体の経営体について実証的研究がされている（宮崎編 2006）。しかし、設立に関わる資本や発展期後、継続的な取組みとなっているのかについての研究はなされていない。

3. 和歌山県田辺市上秋津地区の事例

和歌山県田辺市上秋津地区は、田辺市の南東部に位置する中山間地域である。

グリーン・ツーリズムの取組みは、2008年、小学校が廃校となり、その跡地を利用して秋津野ガルテンという拠点施設を作り、農家レストラン、宿泊施設、農業体験などの取組

亞洲服務業管理應用與未來展望國際研討會 兼 日本企業經營学会第 11 回國際學術研究大會

みを実施している。秋津野ガルテンは、農業法人株式会社秋津野が運営しているが、出資者は、489名の農業を営んでいる者からサラリーマンまでの地域住民であり、地域活性化を図るために地域の農業とそれに関連した資源を活用して事業展開している¹⁾。

こうした事業展開が成立している背景には、地域住民による地域の課題解決が行われていることにあり、目的に合わせて30の団体が組織されている。中でも、公益社団法人愛郷会が大きな役割を果たしている。そこで、公益社団法人愛郷会に焦点を当て、秋津野ガルテンと公益社団法人愛郷会とのキャッシュフローの関係性についてインタビュー調査を行った²⁾。

その結果、秋津野ガルテンと公益社団法人愛郷会との間で資金の還流が発生し、地域の新たな事業創造の資本になっていることがいえる。

4. おわりに

地域資源を資本として地域内循環ができる体制を整備することにより、グリーン・ツーリズムによる地域経営は、持続的に発展していく可能性があることが明らかとなった。

【注】

- 1) 秋津野ガルテンホームページ, <http://www.agarten.jp/garteninfo/gaiyou.html> (2017年8月20日アクセス)。
- 2) 2017年8月21日上秋津農村環境改善センター

【参考文献】

1. 宮崎猛編著『これからのグリーン・ツーリズム—ヨーロッパ型から東アジア型へ—』, 家の光協会, 2002年。
2. 宮崎猛編著『日本とアジアの農業・農村とグリーン・ツーリズム—地域経営／体験重視／都市の孫交流—』, 昭和堂, 2006年。